

県内の遺跡・遺物31

## のう みね 直 峰 城 跡 (昭和34年 県指定)

所在地：東頸城郡安塚町安塚字倉荊門

直峰城跡は、小黑川右岸にある城山（標高344m）の山頂部一帯を占めており、戦国時代には春日山城の支城として、重要な役割を果たしていた。城跡からは安塚町はもとより春日山城跡、日本海、頸城・魚沼の山並みなどが眺望でき、中世の典型的な山城の面影を留めている。本丸跡は長さ89m、幅42mの規模をもち、本丸周辺には樹齢800年ともいわれる大欅や飲料水として使用された金明水、食料や武器などを保管した蔵跡などが残っている。第二次世界大戦中、食料増産で本丸跡周辺を開墾したところ、千手観音像や鐔、青磁の茶碗、中世陶器などが出土したが、これらは当時の様子を伝える貴重な遺物といえる。また、昭和40年のテレビ共同受信施設工事の際には、本丸跡虎口付近で野面積み石垣が見つかった。

直峰城の築城時期ははっきりせず、南北朝時代には風間信濃守の居城であったと伝えられているが、確実な史料は残っていない。天正6年（1578）に起こった御館の乱に際しては、直峰城は上杉景勝軍の拠点として景勝側の勝利に大きく貢献した。景勝は御館の乱で戦功のあった樋口惣右衛門を直峰城主に任命したが、慶長3年（1598）の景勝会津移封に従い、樋口惣右衛門も会津に同行した。代わって春日山城主となった堀秀治は、重臣の堀伊賀守を直峰城主に任命したが、慶長15年（1610）の堀家の没落と共に直峰城も廃城になったと考えられる。麓の駐車場から山頂の本丸跡までは、徒歩で20分程度の距離である。



牧野峠から見た直峰城跡（2000年11月29日撮影）

### 埋文にいがたNo. 33

発行（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

〒956-0845 新津市金津93番地1 e-mail:maibun@coral.ocn.ne.jp

TEL (0250) 25-3981 FAX (0250) 25-3986

印刷（株）文久堂